

---

# ガリアの虚無-95315

無軌道

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ガリアの虚無 - 95315

### 【Nコード】

N77230

### 【作者名】

無軌道

### 【あらすじ】

主人公がガリアに飛び、無双をしようとする  
…が、なんと主人公は虚無になってしまう  
ろくな魔法は使えない  
しかし、死ぬほどの苦労をして  
漸くレビテーションを会得する  
そして、レビテーションを応用し風のラインと偽り  
最強になる…かもしれない

## 始まりのはじまり

ある時、交通事故に巻き込まれた

それは突然で避けようも無く

無情に俺の命を刈り取るうとしていた…

「って、こんなんで死んでたまる…かつー

こちらら、18で人生これからなんだよっ」

普通跳ね飛ばされて終わるだけの筈の彼は、火事場のクソ力を発動し

見事に、子供達の前でトラックを止めてみせた

「ぶじか…がはっ」血を吐き、ともに言葉が紡げなかった。

（やばいな、肺がやられてるのか？

息が出来ねえ）

子供達の先頭に立つ、少し背の低い子が尋ねる

「お、おじさん大丈夫？」（おじさん違うんだが…）

「ああ、大丈夫…だっ

だから…もう行きな」

「で、でも心配だよ

救急車もよんだりしないとだし…」

（つつたく…トラウマにでもなられたら

寝覚めが悪いつつうのに…）

「いいから…いきやがれっ…がはっ

…じゃま…だ」

（意識が朦朧としてきた…

血が足りてねえのか？…いや、息が出来てねえのかもしれねえ）

「で、でも」

「でもも糞もねえっ……

俺に、殺されたくなかったら……ぐっ

さっさとどっかにいきやがれっ」

最期の死力を尽くして彼は叫ぶ

その迫力に、子供達は散り散りに逃げ出した

…話かけてきた子を除いて

（あ、やべえ今ので限界っぽい…

まさか、こんなんで死ぬとはなあ

しかし、このガキいつまでいるつもりだ？

他のは全員逃げ出したつつうのに）

「おじさんありがとう。」

「い…………い、わす…………れ…………ろ」

かすれた声で、声を放つ

もう、吐く血すら残っていないようだった

「忘れないよ、ずっと覚えてる」

全てを察しているらしい子供は

微笑みながら、涙を流した

彼は苦笑し

「……………かつ……………て……………に……………し……………ろ」

彼は、その生涯の幕を笑いながら閉じた

パチパチパチ

拍手の音で、目が覚めた

…周囲は、何処までも白の世界で

音の発信原を探る事が出来なかった。

（なんだ…？俺は、死んだん…だよな？）

「そう、君は死んだ」

（うおっ）

「うむ、良いリアクションだ」

（なんだそれ…？）

ああ、あれか？心読めるとか、そういう展開？

「そうだ、君は話が早くて助かる」

（そうか…そうすると、個々は天国若しくは審判台、選別所…それか地獄

そんでお前は、神かなにかか？）

「はっは、察しが良いなあ

俺が神と言うのは正解

場所は、君の言うところの審判台が正しいかな」

（そうか、んで？

俺はどうなるんだ？

神がいるなら、天国か地獄にでもぶち込まれるのか？）

「いや…君には、もう少し選択肢を用意した」

（なんだ？）

「まず一つ目、順当に天国に送り込まれる  
次に二つ目、現世に蘇る」

（なっ！？……なにが狙いだ…？）

…蘇れるとして対価はなんだ？）

「ふっふ、君は本当に察しがいい

まあまず、狙いだが…まだ言えない  
次に対価は…子供達の命だ」

（おい…選択肢をもう一つ用意しろ  
…てめえを殺して、此处に留まるっ）

彼が殺気を放つ

「はっ、怖い怖い

神を相手に、憶せず殺気を放つとは

…しかし、ということとは

君はこのまま、死んでいいのか？」

「あ！？それで

はい分かりました、とでも  
言うと思つてたのか？

嘗めんじゃねえよ」

「うぐつ、いきなりデカい声を出すな  
なかなかにつるさい

そうか、だが

…たしかお前は、死ぬ前に

ここで死ぬ気は無い、と言つていなかったか？」

（それがどうした？）

「いやなに、それなら現世に未練でも

有るんじゃないかと思つたんだがなあ

違つたか？」

（ちつ、未練というか

これから色々、やらなきゃあイケない事もあつたんだが  
まあ、あいつらのことだ

俺が居なくても何とかなる…筈だ）

「そうか、では

戻らないのか？」

（はっ、それこそ俺達を嘗めるな

てめえみたいな、奴の手なんぞ借りんでも

何とかしてみせらあ）

「くつくつ、実に良い

君は面白い

…では、最後に君は助けた事を後悔していないのか？」

（するわけねえだろ、いつも後悔はしねえように生きて来たんだよ）

「はっ、実に良い

そうか…ならば、もう一つ選択肢を用意しよう」

（なんだ？）

「転生する気は無いか？」

（転生？あー、剣と魔法の国へビューン…てか？）

「ふむ、君が望むならそのような世界にしよう」

（いやいやいや、違いますよ？

俺は、転生のイメージを言っただけで）

「まあ、其方の方が面白そうだし  
そうしよう」

（おいっ！？）

「さて、そうと決まれば

早速転生したいのだが、決意は固まったか？」

（はええよ、ああ…転生ねえ？

思い付く所と言えば、チート性能を持つて無双するくらいだが）

「うむ、ならば魔力はお前の向かう世界で

最も多い者の二倍にしてやろう

体も、まあ腕力も最強の二倍でよいか」

（適当だなおいつ、まあ

それなら良いか、転生）

「そうか、ならば行つて貰おう」

神がそう言つと、数歩前に半径一メートルほどの黒い穴が

地面らしき所に空いた

（転生とは…予想外だったな

では、いく…ん？）

何故かもう一つ、黒い穴が空いた

…何故か、自分の足元に

（なぜだああああああー）

「いや、すまん

なんか、イタズラしたくなった」

（（ふざけ……）

「ああ、転生したのか

面白い奴だったなあ…」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7723o/>

---

ガリアの虚無-95315

2010年11月8日00時34分発行